

## 石川県原子力環境安全管理協議会 議事概要

1. 日 時：平成 24 年 7 月 12 日（木）13 時 30 分～15 時 15 分
2. 場 所：石川県庁 行政庁舎 11 階 1109 会議室
3. 出席者：委員 23 名、説明者、事務局他
4. 議事概要：

(1) 「石川県原子力安全専門委員会の設置」について、事務局より説明があり、協議会として、設置が了承された。

(委員) 専門委員会の委員数、開催頻度、公開・非公開、常設等決まっているのか。

(議長) 委員数は 10 名程度以内と考えている。専門委員会は、安管協の機能を強化するものであり、常設の機関である。事業者の対応や国の審査結果などのうち重要なものを審議する予定。

(委員) どのような形で審議が行われるのか。具体的に聞きたい。

(議長) 最初は北陸電力が行った各種安全対策について確認を行うことになる。

(委員) 専門委員会は重要なものを審議するとしているが、どういうものか。

(議長) 今後、委員が決まった後に相談していきたい。

(2) 「志賀原子力発電所 1 号機及び 2 号機の使用済樹脂タンクの共用化に係る原子炉設置変更許可」について、原子力安全・保安院志賀原子力保安検査官事務所より説明があり、協議会として、「異論はない」ととりまとめられた。

(3) 「志賀原子力発電所 1 号機の安全性に関する総合評価（ストレステスト）の一次評価」について、北陸電力から説明があった。

(委員) ウェットベントの機能は確保されているのか。

(電力) ウェットベントで用いられるバルブ、配管等について評価し、最終的に基準地震動に対する裕度が 1.93 倍であることを確認している。この範囲内であれば、確実に機能することを確認している。

(委員) バルブの裕度は何によって決まるのか。また、電源車による電源の確保などの裕度はどのように決まっているのか。

(電力) バルブの裕度は弁の機械的な部分で決まる。電源車の裕度は高圧電源車がひっくり返らないと確認できる加速度とし、基準地震動  $S_s$  の 2 倍としている。

(委員) 消防車による原子炉への給水の裕度についてはどうか。

(電力) 同じである。

(委員) 大坪川ダムは北電が作ったのか。耐震性について、他の機器と同じ考えで作ったと理解してよろしいか。

(電力) ダムは当社でつくっているが、原子力発電所の安全設備という観点では作っていない。大坪川ダムの強度は、ストレステストの裕度評価に使っていない。

(委員) ベントはサプレッションプールを通り排出されるものの他に、格納容器の横から排出されるものがあるようだが、どこから排出されるのか。

(電力) ドライウェルベントといい、格納容器の横から圧力を抜くためのラインがある。

(委員) 通常ベントはサプレッションプールの水を通すが、万が一の時はサプレッションプールを通らない、ドライベントということになるのか。

(電力) ドライベントをやるような事態は考えていない。もちろん、ドライベントで使用するバルブ強度も確認しているが、実際には、ウェットベントが確実にベントできる構成(バルブ、配管等が確実に機能する)である。

(委員) ドライベントはどのような時に使用するのか。

(電力) ドライベントの具体的なシナリオは持っていない。あくまでもウェットベントと考えている。定期点検時に窒素を抜くために、ドライベントのラインは設置されている。

(4) 「志賀原子力発電所の運転状況等」について、北陸電力より説明があった。

(委員) 邑知渦南縁断層について、地震の発生確率についての見解があるか。

(電力) 地震発生確率は4%程度の発生確率と報告されている。

(委員) 富来川南岸断層の評価はいつまで実施するのか。

(電力) 富来川南岸断層調査は、詳細な調査を順次実施していくものであり、採取データによってサンプル数を増やすといった対応をその都度実施していく必要があるため、現段階でいつ完了するかお答えできない状況である。

(委員) 「塔」とあるが、「装置」との記載があり、意識的に表現を変えているのか。

(電力) 当社は「塔」、保安院では「装置」と言っているが、同じものである。

(委員) ブローアウトパネルを開けることは、水素爆発を避けるという観点では意味があることだが、大量の放射性物質を拡散させることになるが、どうか。

(電力) シビアアクシデント対策の1つとして、水素爆発の防止という観点からブローアウトパネルの開閉できるようにしているが、大量の放射性物質が拡散するような事態にならないよう気を付けなければいけない。水素爆発を起こさないために、緊急安全対策、更なる対策を随時やっていく。

(委員) 鉛直動について基準をやや超えているが、放水槽とか防火水槽等に対して、スロッシングの影響はあるのか。

(電力) スロッシングの影響を受けるのは水平動であり、鉛直道へは非常にわずかであることが文献等で報告されている。このため、スロッシングに影響を及ぼすことはないと判断している。

(委員) 意見として、外部電源の確保について、ニューレグ1150というレポート等を参考に強化してはどうか。また、フィルターベントにより、放射能レベルは1/1000になるとしているが、確実に機能することを確認していただきたい。ベントの場合には、水を通してベントしていただきたい。

(委員) 大坪川ダムは降雨量により変動すると思うが、平均的な水位で必要とされる冷却水の量のどのくらいの時間分確保されるか。

(電力) 大坪川ダムは36万トンの水量があり、冷却のために必要な水の量は、1, 2号機

フルに冷却する場合でも、1時間あたり50～60トンであり、十二分な量があると考えている。

(委員) 邑知潟南縁断層帯から森本富樫断層帯について、5月29日の保安院の見解として、連動の可能性を否定することは困難であり、連動を考慮した上で不確かさを考慮した検討を行うこととあるが、どういうことを言っているのか、また、どういうことをやっているのか。

(電力) 邑知潟南縁断層は、南東の方向に傾斜した断層であり、これに対して、坪山－八野断層は、その逆向きの断層と評価している。保安院からはそれを連動して評価するように指示された。邑知潟から森本までの71kmを評価した結果、施設に影響を与えないことが判明し、18日の意見聴取会で審議いただく。

(委員) ホールボディカウンタを緊急時対策棟の運用開始に合わせて1台増設配備するとある。緊急時対策棟は、発電所内の対策本部が撤退した際、移る場所なのか。

(電力) 緊急時対策棟は、シビアアクシデントが発生した場合に原子炉を安全に停止していくための指示を出すサイト内の施設であり、免震構造で被ばく対策もする予定である。来年の4月完成予定である。ホールボディカウンタで作業員の被ばく管理も行うことになる。

(5) 「志賀原子力発電所周辺環境放射線監視結果報告書(案)」について、事務局より説明があり、協議会として承認された。

(6) 「志賀原子力発電所温排水影響調査結果報告書(案)」について、事務局より説明があり、協議会として承認された。

(7) 「原子力発電所に対する保安検査結果等」について、志賀原子力保安検査官事務所から説明があった。

(委員) 福島第一原発事故の原因究明はどうなっているのか。

(保安院) 先日、国会事故調査委員会の報告がなされ、政府は現在最終報告のとりまとめ中である。保安院は3月末に技術的知見により、30項目の対策についてとりまとめている。今後とも、事故の教訓、あるいは新たな知見については、政府として取り込んでいく。もちろん、今後、9月にできる規制委員会が、原子力の安全の規制について、とりまとめていくことになる。

(委員) 一日も早くしっかりした原因究明を出してほしい。よろしくお願いします。

(8) 事務局より前回の議事概要について、ホームページに公開している旨報告があった。

－以 上－